

第12回日本放射光学会若手研究会 募集要項

1.若手研究会公募の趣旨

放射光は、物質科学から生命科学まで幅広い研究分野で利用され、学術研究のみならず産業応用も進められるなど現代科学において必要不可欠な基盤技術として広く認知されています。最近では最先端のX線光源としてXFELが完成し、前人未踏領域の成果が生み出されはじめている一方で、既存光源の高度化や新規光源建設の計画も進み、近未来における新しい放射光研究も現実味を帯びてきました。このような時代を迎えて、今後の放射光科学を担う若手研究者が中心となって、放射光科学をどのように展開していくのかを考える若手研究会を日本放射光学会内で広く募集します。

本研究会は、若手研究者のリーダーシップの育成、および、研究会で議論されるサイエンスを通じた新しいネットワークの形成に貢献するとともに、独創的・萌芽的な研究テーマの発掘およびその研究促進に寄与することが期待されます。

以下の研究会がこれまでに開催されてきました。

第1回「ナノ集光技術研究会」(放射光誌 Vol.22, No.6 に報告記事)

第2回「顕微分光のフロンティア」(放射光誌 Vol.23, No.6 に報告記事)

第3回「水の構造と物性研究の最前線」(放射光誌 Vol.24, No.6 に報告記事)

第4回「表面電子のスピンの生み出す物理の最前線 -ラッシュバ効果、トポロジカル絶縁体-」
(放射光誌 Vol.25, No.6 に報告記事)

第5回「パルス特性を用いた次世代材料研究の最前線」(放射光誌 Vol.26, No.6 に報告記事)

第6回「コヒーレントX線が拓く構造可視化の新しい世界」(放射光誌 Vol.27, No.6 に報告記事)

第7回「最先端オペランド観測で明らかになる物性科学」(放射光誌 Vol.27, No.6 に報告記事)

第8回「軟X線イメージングの描く未来」(放射光誌 Vol.29, No.1 に報告記事)

第9回「最先端のパルス光で観る超高速科学」(放射光誌 Vol.30, No.6 に報告記事)

第10回「放射光科学×インフォマティクス」(放射光誌 Vol.31, No.6 に報告記事)

第11回「放射光を用いたナノ分光技術とスピントロニクスとの協奏」(放射光誌 Vol.32, No.6 に報告記事)

2. 募集条件

- ・放射光科学の将来を議論する若手主体の研究会である
- ・将来ビジョンについての議論を含めるものとする
- ・放射光科学に関するものであれば研究分野は問わない
- ・代表者、共同申請者は学会員である
- ・代表者と共同申請者は全て異なる研究室・研究グループに所属している
- ・代表申請者および1名以上の共同申請者の年齢が40歳以下とする

- ・50万円を上限とした開催費用を補助する（他予算との共催も可能）
- ・採択された研究会は学会誌への開催報告書提出を義務付ける
- ・参加想定人数30名程度以上とする
- ・開催時期：2020年夏（7月から9月）に開催可能なもの

3. 申請締切

2020年3月20日（金） 17:00 必着（若手研究会申請書による申請）

4. 審査日（予定）

2020年4月1日（水）

5. 書類送付先

〒530-0001

大阪市北区梅田1丁目11番4号

大阪駅前第4ビル9階923-1121号

(株)ポラリス・セクレタリーズ・オフィス内

日本放射光学会事務局 宛

TEL：070-5564-1963 FAX：06-6345-7931

E-mail:jssrr@jssrr.jp

*E-mailの添付ファイルでも受付可

6. 本件に関する問い合わせ先

放射光学会 行事幹事 小嗣真人 (E-mail: kotsugi@rs.tus.ac.jp)

7. 選考方法

- ・若手研究会選考委員会（以下、選考委員会）を組織して、その選考を行います。
- ・選考委員会は、学会長が委嘱した委員長と複数の委員、および、会長、担当幹事により構成します。
- ・その選考は申請書の記載内容による書類選考を基本とし、必要に応じて選考委員会において申請者へのヒアリング（場所・日時は申請者に後日連絡）を実施します。

<選考基準>

・以下の項目を考慮した審査を行います。

- ① 放射光科学にむけたニーズを的確に捉えた研究テーマであるか。
- ② 独創的・萌芽的な研究テーマの発掘・促進が期待できるか。
- ③ 研究会を実現するために、十分計画が練られているか。
- ④ 放射光科学の新しいネットワークの形成・発展が期待できるか。 等

※なお、すべての申請が趣旨と合致しない場合には、「採択課題なし」の可能性もあります。